

おきみゅー通信

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum News Letter

vol.12 夏号



組踊上演300周年
広げよう この感動をつなごう まだ見ぬ未来まで

EXHIBITION
THE

KUUMI

ODORI

300

— 組踊展 —

組踊の歴史と拡がり

＼愛称がおきみゅーになりました！



沖縄県立博物館・美術館
Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

組踊上演300周年記念特別展

THE KUMI ODORI 300

～組踊の歴史と拡がり～

7/11(木) - 8/25(日)
2019

博物館企画展示室、特別展示室1・2
一般 1,000(850)円、高校・大学生 800(680)円
※()は20名以上の団体料金 ※小学生以下無料
※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者の方1名は無料

国指定重要無形文化財やユネスコ世界遺産にも登録されている沖縄の伝統芸能「組踊」。2019年は、組踊初演から300周年を迎えます。300年の歴史を振り返りつつ「組踊のこれから」について展示担当の仲宗根さん(琉球文化財研究室)に聞きました。

首里城出土の兜の前立て(首里城会場にて展示)



多良間村の組踊衣裳(おきみゆー会場にて展示)

組踊という、名前を知っていても観たことのない人も多いのではないのでしょうか。ズバリ組踊の魅力とは?

「琉球版オペラ」といえばイメージしやすいでしょうか。組踊はせりふ・音楽・踊り(所作)の3要素で構成されます。せりふは琉歌を基本とし、キャラクターごとに一定のリズムと音程・抑揚に合わせて唱えます。役者は演技力だけでなく、音感の良さや声量も求められます。組踊を「観に行く」ではなく、「聴きに行く」と言われる理由のひとつですね。それが第一の魅力です。

組踊の音楽の大きな特徴は、イントロ無しに歌い始める点です。演奏者は音程がずれないう、気を引き締めて臨みます。また登場人物の感情の高まりは音楽を通して表現されます。それがうまくいった時の見事さは何ともいえません。

組踊の所作は琉球舞踊を基本とします。繊細な気配りが行き届いた身のこなしは、日常的な動作が基本のお芝居などにはない、独特の魅力をもっています。

これらの要素がうまく溶け合ったとき、組踊の魅力は最大限に引き出されるでしょう。

オペラに親むような人にとっても、まったく新鮮な舞台芸術なんですね?

そうですね。しかし実は沖縄県民にとって身近なものでもあります。現在でも県内各地では、豊年祭(村踊り)の一環として組踊が演じられていることをご存じでしょうか。芸能を生業としない地域の方々が豊作を願い、組踊を奉納します。その情熱とエネルギーは地域の誇りとなっています。

今回、首里城とおきみゆーで展覧会があるようですが、どのような展示内容ですか?

組踊はもともと中国からの賓客(主に冊封

使)をもてなすために創られた芸術です。1719年、踊奉行を務めていた玉城朝薫によって初めて演じられました。そのような背景から、首里城では王国時代の組踊にまつわる展示を行います。

おきみゆーでは明治以降に焦点を当てます。県内各地の地域芸能として、また舞台芸術として昇華された組踊について紹介します。

■ 首里城会場(王国時代の組踊)のみどころは?

組踊ではよく紅型衣裳が使われますので、王国時代の紅型など豪華な服飾類や道具を展示します。首里城から出土した兜は、組踊の名作「二童敵打」の阿麻和利を彷彿させます。武具や伝統工芸品などから、組踊が生まれる歴史的背景を感じ取っていただければ幸いです。

また当時組踊の主賓であった冊封使などをテーマに、琉球と中国との交流を展示解説します。

■ おきみゆー会場(近現代の組踊)のみどころは?

県内各地に継承される組踊には、その地域にのみ伝わる演目もあります。村踊りならではの雰囲気や再演し、地域に根差した組踊をご紹介します。

また伝統を受け継ぎつつも、現在につながる琉球芸能の価値を築き上げた名優たちにまつわる展示を行います。衣裳や小道具のほか、NHK「沖縄の歌と踊り」とタイアップし、貴重な舞台映像を上映します。

首里城とおきみゆーの展覧会を観ることで、組踊の魅力に多角的に触れることができます。

■ 王国時代から近現代まで、組踊にもドラマチックな歴史がありそうですね。

初演から300年の間に、組踊は2度の大きな危機を迎えます。琉球処分(1879年)と沖

縄戦(1945年)です。

琉球処分により職を失った士族たちは、食いつ持たせざるを得ない状況に陥りました。それでも今日まで受け継がれている背景には、先人たちの血のにじむような努力と、組踊に対する情熱が大きくはたらいたことでしょう。

■ 組踊の「これから」——。

沖縄戦直後のクリスマスに、収容所内の仮設舞台で組踊「花売の縁」が上演されました。観客は「離散した家族が再会する」というストーリーと自らの境遇を重ね合わせ、戦争で離ればなれになった大切な人々を想い涙したそうです。時代を経ても組踊が私たちの心を打つのは、普遍的な「人の想い」が織り込まれているからでしょう。

また最近では、舞台横のモニターに現代語字幕が表示されるので、昔言葉がわからなくても物語を追うことができます。ほかにも創意工夫がなされ、組踊はどんどん親しみやすくなっています。現代の人たちでも気軽に楽しめる世界です。

■ 最後に一言メッセージを!

今回の展覧会は何と言っても、名優たちの貴重な映像の数々と、由緒のある舞台幕や衣裳・小道具を間近で見られる絶好の機会です。ぜひ会場にお越しください。

ジブリの大博覧会

—ナウシカからマーニーまで—

7/13(土) - 9/8(日)
2019

美術館企画ギャラリー1・2
一般 1,400(1,200)円、高校・大学生 1,000(800)円、
中学生 700(500)円 ※()は前売料金

※「ジブリの大博覧会」は土曜日のみ20時まで開場となっております。 ※小学生以下無料。保護者の同伴が必須です。
※10名以上は「団体」扱いで団体は平日のみの事前申込制です。子ども5名あたり大人1名の引率が必要です。
※障がい者手帳をお持ちの方およびその介助者の方1名は当日料金の半額。

2013年「スタジオジブリ・レイアウト展」から6年——。今夏は「ジブリの大博覧会」がおきみゆーにやってきました! 前回のレイアウト展とはどういうところが違うのか? 「ジブリの大博覧会」の見どころやこだわりとは? スタジオジブリプロデューサーの青木さんにお話を伺いました。



スタジオジブリ プロデューサー 青木 貴之 さん

今夏やってくる「ジブリの大博覧会」は2013年開催の「スタジオジブリ・レイアウト展」とはどういったところが違うのですか?

今までスタジオジブリは各地で展覧会を開催させていただいてきました。そのほとんどが「スタジオジブリ・レイアウト展」に代表される、スタジオジブリがどのように映画制作をしてきたか、そのプロセスの一部をご覧いただく展覧会でした。この度の「ジブリの大博覧会」はスタジオジブリがどのようにお客様に映画を届けてきたのか、所謂「宣伝」を中心とした展覧会です。宣伝と一言に言っても実は、ポスターやチラシといった皆さんが映画を見る「きっかけ」になるものです。その中でもジブリならではの、身近な創造性があると考えています。

■ ジブリ作品が人をひきつけてやまないのは何故だと思いますか?

そう言ういただくことは、とてもありがたいことです。それだけ多くのお客様にジブリ作品を楽しんでいただいているからです。そんなジブリ作品の特徴のひとつを示す、宮崎駿監督の言葉の一節があります。「半径3m以内に大切なものはぜんぶある。」これは崖の上のポニョの宣伝時に使われた言葉でもあります。ジブリ作品の作り方・考え方が、お客様を含む皆さんのすぐ近くにあるものに根付いているから、というのが一つの理由かもしれません。

■ 「ジブリの大博覧会」その見どころは?

すべてが見どころ、というのが正直な答えなのですが、展示の入り口ではトトロが皆

さんをお迎えています。あたかもジブリのスタジオに迷い込んだような様相です。そこから続く展示では、ジブリが30年以上映画を制作してきた、その裏側を垣間見ることができます。そのひとつに、「文字」があります。過去の資料に残る、当時の映画制作上のやり取り、FAX、手紙など、そのコミュニケーションの形跡です。映画制作時の「人の熱量」を感じていただけたと思います。

また「ジブリの大博覧会」は会場ごとにバージョンアップしています。ジブリ作品に登場する空飛ぶ乗り物に注目した「スタジオジブリ空とぶ機械達展」、そして前会場から加わった「風の谷のナウシカ 王蟲の世界」と、目の前に迫る大きな造形物たちも沢山あります。それはここでしか見ることができない、まさに「大博覧会」になっています。



福岡会場から初解禁となった王蟲の世界も沖縄会場に!

© 1984 Studio Ghibli・H

琉球と元号、改元

沖縄県立博物館・美術館 館長 田名 真之

「平成」から「令和」へ…改元にちなんで館長から「元号」のお話

5月1日、元号が「平成」から「令和」に変わった。元号が変わることを改元という。

元号を創出したのは中国で、皇帝が領土や人民を包摂する空間のみならず時間までも支配するとして、建元(元号を定め)し、暦を作成した。中国の制に倣って独自の元号を持ったのは、日本とベトナムである。朝鮮も古くは元号を持ったが、明清代は朝貢国としてその「正朔を奉じ」中国の暦、元号を用いた。琉球も同様で、1372年朝貢国となった際、大統暦(明朝の暦)を下賜された。以後、明治8年に明治政府によって中国関係の断絶などとともに「明治年号の使用」を命じられるまで、中国暦を用いていた。それでも民間では明治末年まで清朝の「光緒」が用いられていた。

ところで、多良間村の古文書「仲筋目差あて辞令書」は「隆武3年8月28日」の日付で、今帰仁の「中城ノロあて辞令書」は「隆

武8年」、我が博物館の石厨子にも「隆武6年」の紀年がある。外交文書集「歴代宝案」には「隆武5年」の文書もある。しかし、明朝の残存勢力である南明政権の元号の「隆武」は2年しか続かなかった。琉球は、明朝の滅亡、清朝の成立を知らないまま、「隆武8年」まで使い続けていたのである。



石厨子(隆武6年銘入り)

職時の辞令書の日付は「咸豊12年5月22日」とあるが、咸豊は11年までで、同治への改元情報が間に合わなかったことが分かる。

自国の元号を持たなかった琉球は史書の一つの「球陽」では「尚敬王〇年」と記し、朝鮮も「朝鮮王朝実録」では、「世宗〇年」と記していた。せめてもの自己主張だったといえよう。



博物館常設展
一般 530(420)円
高校・大学生 260(210)円
小・中学生 150(120)円(県内小・中学生は無料)
※()内は20名以上の団体料金
※未就学児、70歳以上の方(証明書の提示が必要です)、障がい者手帳をお持ちの方(手帳の提示が必要です)及び介助者の方1名は無料

美術館コレクション展

7/13(土) - 10/13(日)
2019

コレクションギャラリー1.2
一般 400(320)円、高校・大学生 210(170)円
小・中学生 100(80)円(県内小学・中学生は無料)
※()内は20名以上の団体料金
※未就学児、70歳以上の方(証明書の提示が必要です)、障がい者手帳をお持ちの方(手帳の提示が必要です)及び介助者の方1名は無料



川端弥之助《南方夕照》1941年頃

コレクションギャラリー1

金城安太郎展

安太郎(1911-1999)は沖縄画壇における数少ない日本画家の一人でもあり、しなやかな線の美しさと緻密な描写で知られています。

安太郎は戦争のために失った文化財や沖縄の原風景を描き遺したいという想いがありました。安太郎自身が独自に調査し、その知識を活かした緻密な描き込みと立体的で説得力のある描写が魅力的であり、生き生きとした安太郎作品の特徴といえます。



金城安太郎《伊野波節》1978年

本展では前年度寄託された日本画を展示するとともに、新聞挿絵、参考資料などをあわせて紹介します。

コレクションギャラリー2

沖縄を描いた画家 1930-1950's

当館のコレクションより1930年代から1950年代までの絵画を展示して、沖縄近代絵画の流れを見ていきます。沖縄で1907年に結成された丹青協会の第1回展に参加した親泊英繁や、1920年に結成された、ふたば会に参加した山里永吉などの画家たちの作品と、沖縄を旅した藤田嗣治、北川民次、鳥海青児、川端彌之助、伊藤清永などの画家たちが描いた作品を通して、沖縄がテーマとなった魅力について考えてみたいと思います。

指定管理者×沖縄県立美術館支援会happ連携事業

おきみゅーミュージアム定期コンサート

happが設立当初から夢見てきた「おきみゅーミュージアム定期コンサート」が2019年4月より本格始動しました!

NPO法人 沖縄県立美術館支援会 happでは、おきみゅー開館当初より「音楽でも美術館を盛り上げたい」という理想がありました。

2019年2月におきみゅーのエンタランスホールにグランドピアノがやってきたことを契機にミュージアムコンサート開催の夢が現実味を帯び、県内で活躍するアマチュア室内楽団「大度室内楽団」によるクラシックコンサ

ートを皮切りに、4月には「驚異の写実一ホキ美術館名品展」の関連イベントとしてフランスでご活躍の県出身ピアニスト宮城知子氏によるピアノコンサート、5月にはテリー重田氏JAZZサクソコンサートと「ユキ&カトリヌ」によるエンタランスコンサートを開催しました。いずれのコンサートにおいても、お客様から好意的な感想やコメントが多数寄せられ、定期的な演奏会の開催を望む声もいただくことができました。

このようなお客様の声を励みに、happの使命「(ジャンルを問わず)アーティストが活躍できる場所を提供する」を果たすべく、月2回もしくは季節のイベントごとに、県内で活動している音楽家のみなさんのコンサートを開催できればと考えています。

ミュージアムコンサートの日は、普段より少しおしゃれをして、美術館のアート作品を鑑賞しながら上質な音楽を楽しむ贅沢なひとときを過ごしませんか?



大度室内楽団(2/24)



宮城知子ピアノコンサート(4/28)

詳細は決まり次第HPにて公開していきます! お見逃しなく!

スケジュール

- 7/7日 「ハーメルンの笛吹きおとこ」プレコンサート 16:00~
- 7/14日 ヤギフミトモ ギター弾き語り 16:00~
- 7/27日 大度室内楽団 オークストラストーリー『となりのトトロ』 17:00~

指定管理者主催

2019年夏休み企画

サメ肌のふしぎ展

7/11(木) - 8/25(日)
2019 3F講堂前ホワイエ [観覧無料]

つるつるに見えて、実はザラザラ??? 2018年夏に沖縄美ら海水族館で人気を博した「サメ肌のふしぎ展」がこの夏おきみゅーにやってきます!

サメの肌を触ったことがありますか? ザラザラ? それともツルツル?



いろんなサメのウロコが、3-D模型や3-D写真で見れる!

泳いでいる姿を見ると、ウロコも見当たらないし、なんだかつるつるとみえるサメの肌。本展ではそんなサメの肌を「見て」「触って」「知る」ことができます。

この夏休みはサメの不思議を探求してみよう! 自由研究のテーマにもオススメ!

関連イベント

- サイエンスカフェ〜サメ編〜
7/12(金) 18:00~19:30
場所: 3Fミュージアムカフェ カメカメキッチン 定員 約20名 (事前申込制) 有料
- 沖縄美ら海水族館がおきみゅーにやってくる! ふれあい水族館
8/10(土) 12:00~17:00 場所: おきみゅー駐車場 無料
- サメの歯化石のレプリカづくり
8/11(日) 全4回(予定) ※詳細は決まり次第HPに掲載します 各回15名(当日先着順) 有料
- 沖縄美ら海水族館 サメ博士の講演会
8/12(日) (振替休日) 14:00~15:00 (開場13:30) 場所: 3F講堂 講師: 松本 瑠偉、村雲 清美 (沖縄美ら島財団) 定員 200名 (当日先着順) 無料
- サメの解剖教室
8/18(日) 14:00~15:30 (開場13:30) 場所: 博物館実習室 講師: 宮本 圭 (沖縄美ら島財団) 定員 約20名 (事前申込制) 無料



『つくも神のためのお作法』

マナーが必要な理由

博物館や美術館で「館内が寒い」「展示室が薄暗いな・・・。」と感じたことはありませんか？実は、それにはちゃんとした理由があり、例えば「館内が寒い」「展示室が薄暗い」理由は、作品が傷まないように光と温度・湿度を調整しているからなのです。

答えは2つあります。①歴史的価値・希少性の高い資料を大切に保管し後世に伝えていくため、②鑑賞するお客様が安全で快適な時間を過ごせるためです。

館内でのマナーの呼びかけ

ホームページや展示室入口など様々な場所にポスターを掲示したり、団体見学前に映像や口頭でマナーの呼びかけを行ったりしています。しかし、私たち館内スタッフの呼びかけや管理だけでは資料たちを守ることができません。来館するお客様に協力していただけてこそ、資料が守られ、後世にも歴史や文化を伝えることができるのです。

展示スタッフの悩み・お客様からの質問

「夏場は館内で飲食をされる方が多く、最近はガムを噛んでいる方を注意することがある」「発表会や講演会などでお祝いのお花をもって来る方がいる」
展示スタッフ

日頃からスタッフやお客様からたくさんのお悩みや質問を受けます。

確かに、館内にはマナー呼びかけの禁止マークはありますが、なぜダメなのかという理由が書かれていません。そこで、「理由がわかれば、スタッフの悩みもお客様の質問にも答えることができる！」と考え、特に大切なマナーを7つに絞りポスターを作成しました。資料を『お宝』と名付け、館内のトイレや掲示板などに掲示しています。ぜひ探してみてください。

現在、海外のお客様に向けたポスターも作成しています。また、他にも伝えたいことや今後来館者の「なぜ？」に答えられるよう、第2弾も計画していきたいと考えています。

皆さまにも100年、1000年と私たちよりも長生きするお宝を後世に残せるようにご協力いただけると幸いです。大切にしつづけていると、きっといつの日かお宝たちの声が聞こえてくるかもしれませんね・・・。今回は、「展示室での楽しいおしゃべり」についてお話しします。(教育普及担当 植田瑞生)



「お宝にさわるとどうなるの?」の巻 「展示室がさむいヒミツって?」の巻



「沖縄のお宝を守ろう」シリーズ

「館内が寒い。温度は上げられないの?」「展示物は触っちゃだめなの?」「なぜゴミ箱が1つもないの?」
お客様

「夏場は館内で飲食をされる方が多く、最近はガムを噛んでいる方を注意することがある」「発表会や講演会などでお祝いのお花をもって来る方がいる」
展示スタッフ

ふれあい体験室のイチオシ!キット

担当学芸員が選ぶ!

いろいろな石と砂

砂について

琉球列島を構成している地表の石や砂を知ることができる体験キットです。13種類の岩石と、43種類の海岸の砂を見ることができます。沖縄にはなぜ白い砂浜が多いのでしょうか。石や砂の正体を探ってみましょう。

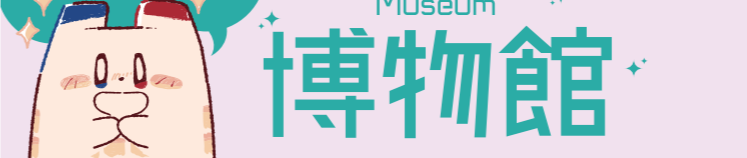
同じ沖縄でも場所によって海岸の砂の色が違うね。自分の家の近くの海岸はどんな砂かな? 砂ケースと採集記録シートを照らし合わせながら見てみよう。

岩石について
岩石は手にとってさわることができるよ。どの岩石がイケメンかな?

解説シートが面白い!

7・8・9月のイベント情報

毎月楽しいイベントが盛りだくさんだみゅ〜



- ### 文化講座
- 【各回共通】 時間 14:00~16:00 場所 講堂 定員 200名
- 7/20 人類学特論 講師 影山 幾男氏 奈良 貴史氏
 - 8/17 石にかわって話したい! 講師 大城 逸朗氏
 - 9/21 ハイサイ沖縄 ~沖縄を見つめて30年~ (仮) 講師 吳 密察氏

- ### 学芸員講座
- 【各回共通】 時間 14:00~16:00 場所 博物館講座室 定員 80名 ※8月のみ変更あり
- 7/13 実践!骨考古学~入門編~ 講師 澤浦 亮平 (人類)
 - 8/10 博物館バックヤードたんけん 講師 大川 剛 (教育普及) 時間 9:30~12:00 対象 小3~中3 定員 15名 ※来館・電話にて7/17(水)から受付開始
 - 9/7 八重山における神役の継承 講師 阿利 よし乃 (民俗)

- ### 博物館常設展 展示解説会
- 【各回共通】 時間 14:00~15:00 場所 博物館 常設展示室 ※当日有効の常設展観覧券が必要
- 7/11 地学 講師 宇佐美 賢
 - 8/8 美術工芸 講師 篠原 あかね
 - 9/12 歴史 講師 外間 一先

- ### バックヤードツアー
- 【各回共通】 時間 14:00~15:00 集合場所 ふれあい体験室前 定員 12名 ※当日13:00より総合案内で受付
- 7/27 生物 講師 菊川 章
 - 8/24 人類 講師 山崎 真治
 - 9/28 民俗 講師 大湾 ゆかり

- ### 夏休み!こどもフェスタ2019「博物館学芸員教室」
- 7/23 申込期間: 7月9日(火)~7月15日(月) ※小学生対象。詳細についてはHPやチラシでお知らせします。

※講師都合により日程やタイトルなど予告なく変更する場合があります。詳細はHP・チラシをご確認ください。

美術館

コレクション展 「沖縄を描いた画家1930-1950's」関連催事

- 8/31 学芸員講座+キュレータートーク 時間 14:00~15:30 (開場13:30) 場所 美術館講座室、コレクションギャラリー 講師 豊見山 愛 ※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要
- 9/28 ギャラリートーク 時間 14:00~16:30 (開場13:30) 場所 美術館講座室、コレクションギャラリー 講師 滝沢 恭司氏 (町田市立国際版画美術館学芸員) ※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要

コレクション展「金城安太郎展」関連催事

- 9/7 ギャラリートーク 時間 14:00~15:30 (開場13:30) 場所 美術館講座室、コレクションギャラリー 講師 調整中 ※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要

「上條文穂と波多野泉展」関連催事

- 9/20 オープニングギャラリートーク 時間 10:00~10:30 場所 企画ギャラリー 講師 調整中 ※当日有効の企画展の観覧券が必要

夏休み!こどもフェスタ2019

- 7/26~28 申込期間: 7月9日(火)~7月15日(月) ※小学生対象。詳細についてはHPやチラシでお知らせします。

美術館ミュージアムツアー

- 【各回共通】 時間 10:30~12:00 (10:25までに「美術館ホワイエ」集合) 定員 12名 (事前申込制)
- 7/20 担当 亀海 史明 (資料収集担当学芸員)
 - 9/14 担当 豊見山 愛 (調査研究担当学芸員)

※当日有効の美術館コレクション展の観覧券が必要となる場合があります ※来館・電話にて催事の1ヵ月前から受付開始

『OKINAWA』アートワークショップ2019

8/17(土) 沖縄の植物(クロトン)で押し花アート

時間 9:30~12:00 (開場9:15)

場所 県民アトリエ、こどもアトリエ

定員 20名

講師 伊是名教子氏 中島トモ子氏

参加費 ラミネート仕上げ500円/ガラス密封額(中)1,600円/(大)3,700円



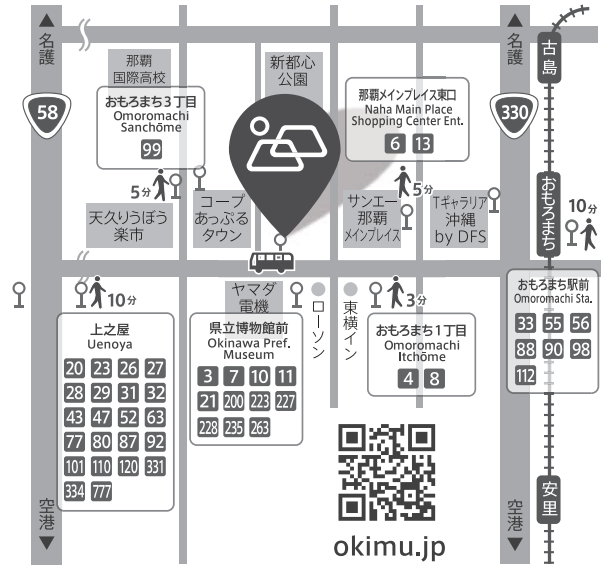
[開館時間] 9:00~18:00 (金曜日・土曜日は20:00まで)
※入館は閉館30分前まで

[休館日] 月曜日(月曜日が祝日にあたる場合は開館し、翌平日が休館)
メンテナンス休館(6月28日~7月6日)
※休館日は変更することがあります

[ホームページ] <https://okimu.jp>

アクセス 駐車場は台数が限られておりますので、
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

[沖縄都市モノレール] ゆいレール おもろまち駅下車(徒歩10分)



編集後記 普段はとても静かなおきみゆーが最も賑やかになる季節が今年もまたやってきます。今年の夏はスタジオジブリ設立から30年の歩みが凝縮された「ジブリの大博覧会」、そして組踊上演300周年を記念した企画展「THE KUMIODORI 300 一組踊の歴史と拡がりー」が開催されます。一見全く毛色の違う展覧会のように見えますが、どちらも数字の「3」を含んでいること、そしてジブリも組踊の祖、玉城朝薫も「人を楽しませることに心血を注ぐ」というスピリットを持っている—そんな共通点が見つかりました。斯様な視点で二つの展覧会を見比べたとき、何か偉大な真理が見いだせるのではないかと密かな期待に胸が膨らみます。みなさまも、ぜひ…! (沖 美宇)

沖縄県立博物館・美術館 季刊誌

おきみゆー通信 vol.12 夏号

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

TEL 098-941-8200 (代表)

[発行日] 2019年7月1日

[編集・発行] 沖縄県立博物館・美術館 指定管理者
一般財団法人 沖縄美ら島財団

一緒にアートの輪を広めませんか?

happ 会員募集中!

NPO法人
沖縄県立美術館支援会 happ



happは活動にご賛同下さる
会員の皆様によって運営しております。
ご入会お待ちしております。

沖縄県立美術館支援会happの
facebookコミュニティに入ろう!

Facebookにて、happの情報やこれまで開催したイベントのご報告など沖縄のアートや美術館、地域の情報を共有することができます。たくさんの友達と交流しましょう!

NPO法人 沖縄県立美術館支援会 happ

happ

沖縄県立博物館・美術館内

TEL 090-8290-0633

ブログ <http://happ-okibi.blogspot.com/>



- ★happの主な活動
- 美術館コレクションギャラリー展示交流員事業
- 対話型鑑賞ツアーの支援
- 博物館・美術館の情報をお届けするラジオ生放送
- 会員向け見学会、講座、出張ワークショップの開催